

色んな物を色んな風に染めてみる 藍の可能性を探る一日

藍は、布や糸を着色するため古代より用いられてきた染料です。薄青から中くらいの青、墨のように黒いものまで、濃さはさまざま。色味も、緑みを帯びたもの、鮮やかな青、紫っぽいものなど色々です。このワークショップでは天然素材と、人が天然繊維から生み出したものを色んな風に染めて藍の可能性を探ります。

開催日時

2023年 5/20 (土)

10:00~16:00 (受付 9:30~)

講師：リンダ・ブラシントン氏
(益子国際工芸交流事業 2016年招聘作家)

場所：益子国際工芸交流館

定員：8名 参加費：1,000円

持ち物：染めたい物、着色する道具、記録する道具（裏面をお読みください）

※汚れてもよい服装と運動靴でご参加ください。

当日のスケジュール

- 10:00~ 益子国際工芸交流館でスライド説明
- 11:00~ 作品づくりの準備
- 12:00~ 昼食休憩
- 13:15 徒歩にて日下田藍染工房へ移動
- 13:30~15:30 日下田藍染工房で染める作業
- ~16:00 益子国際工芸交流館に戻り解散



日下田藍染工房で制作するリンダ・ブラシントン氏(2016年)

お申し込み (5/10(水) 9:30~ 先着順にて受付)・お問い合わせは、

益子陶芸美術館/陶芸メッセ・益子 ☎0285-72-7555まで

あらかじめさまざまな素材、物、アート作品を集めておいて、当日お持ちください。
みんなで想像力を働かせ、さまざまな素材や物について探究します。

無地の布、色付きの布、模様入りの布、糸、紐だけでなく、
他にもいろいろなものを試してみましよう！（下記は一例です）

- 紙、カード、包装材料（新品、リサイクル品）
- 古本、古新聞（無地のもの、印刷されたもの）
- 乾燥した植物、葉、花、草、枝、樹の皮など
- 竹、竹製品 - 製品、かご - 木、木製品

リンダ・ブラシントン氏
UCA 芸術大学ファーナム講師
アーティスト（イギリス）



染める部分と染めない部分の割合、染める物の端や角は？ 藍のトーンや色味、色の着けかた
（浸す、浸ける、滴らせる、落とす、スポットで描く、しぶきを散らす、流し掛ける、など）も考えましよう。

布や糸を巻きつける小ぶりのプラスチックまたは段ボールのチューブ、筒、球、円錐体、木の棒、ブロック、端材、
使い古しの筆、ピペット、スポット、小さな水差などをお持ちいただいてもかまいませんよ。

UCA 芸術大学ファーナム テキスタイルデザイン専攻の学生による作品（撮影：リンダ・ブラシントン）



藁 (わら)



乾燥した植物に筆で

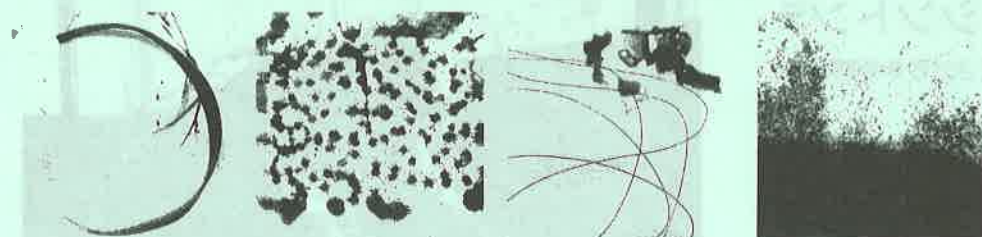


縞地の布と段ボール



樹の皮と苔 (コケ)

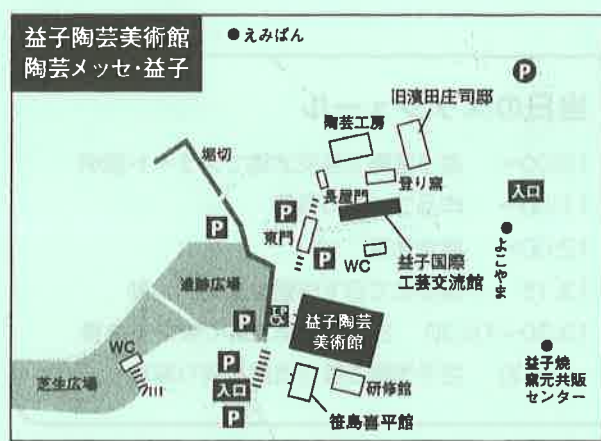
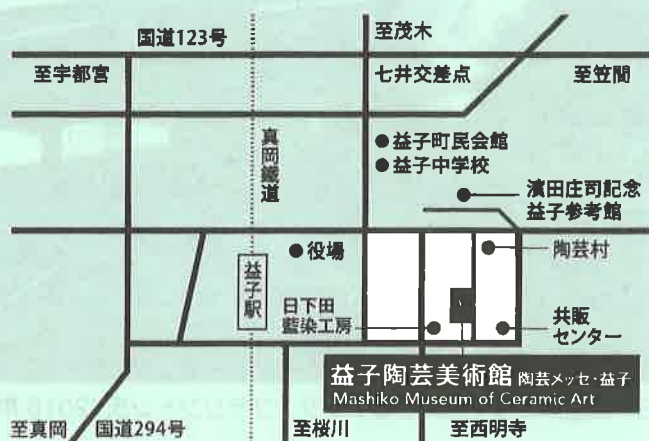
色んな物を



藍に浸した草で模様付け 布・紙にポタポタ落とす 糸を藍に浸し湿った紙に しぶきを散らす

色んな風に

作業工程ごとに写真を撮ったり、スケッチしたりして、ぜひ探究の記録を残しましょう！



最新情報は公式の Facebook、Twitter、Instagram
で発信します。

益子陶芸美術館 / 陶芸メッセ・益子
〒321-4217 栃木県芳賀郡益子町益子3021
<http://www.mashiko-museum.jp/>